

編集後記

『東京外国語大学国際日本学研究 (Tokyo University of Foreign Studies Japan Studies Review)』のプレ創刊号をお届けします。編集部内部ではJSRを略号として使っていますが、東京外国語大学のJSRとして、内外の日本研究者達の話題になる雑誌となることが目標です。次号の創刊号からは、本学の大学院生や本学に関係した研究者達の論文も公募し査読の上掲載します。本号に記された投稿規定を熟読の上、是非とも投稿をお願いします。

本号はプレ創刊号という耳慣れないネーミングでの刊行となりますが、その経緯を述べておきたいと思います。

東京外国語大学の日本関係の研究者が国際日本学研究院という研究組織に集まったのが2015年のことでした。所属する教育組織は様々でしたが、最初に共通業務となった大学院教育を中心に研究者同士としての連帯が強まり、自分達の組織の研究力を発信する研究誌の刊行が視野に入って来ました。2019年の国際日本学部開設を契機に、本誌の企画が具体化し、今回の刊行に至りました。

ここに集まった研究者達は、すでに二つの研究誌を持っていました。一つは『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』で、2018年度までのセンター組織で教えていた専任・非常勤の教員の発表の場として機能して、高い評価を受けて来ました。もう一つは言語文化学部・国際社会学部の日本語専攻で教えていた教員達が運営し、教員の研究発表も含みながら、主として関係する大学院生や卒業修了者達の発表の場として重きを持っていた『日本研究教育年報』です。前者は2018年度で廃刊になり、本誌への継承が直ちに決まりました。後者は2019年度まで雑誌が継続するので、本誌への継承は次号からとなります。したがって、両者の、特に投稿雑誌としての性格を継承して、創刊号となるべきだという事情から、本号はプレ創刊号という位置付けになりました。また、投稿誌となる以上、雑誌がどのような方向を目指すのかを明らかにした上で投稿を促すというのが妥当だという判断もあります。そうした経緯でプレ創刊号（刊号としては0号）となった次第です。

したがって、プレ創刊号は、国際日本学研究院の研究の方向と質の高さを広く示す機能があります。本号では特別寄稿という形で、本研究院の4つの研究領域である、日本社会・日本文学文化・日本語教育学・日本語学について、指導的な役割を果たす本学研究者から論文をいただきました。お忙しい中、我々の願いに応じて力作をお寄せいただいた4人の先生方には感謝と敬意を表したいと思います。特に御定年を迎えられる早津恵美子先生、また、着任早々の佐藤正広先生には、特記して感謝の意を捧げたく存じます。

2020年1月21日 村尾誠一

編集委員：石澤徹 ジョン・ポーター 菅長理恵 幸松英恵 村尾誠一（編集長）